

元治元年十二月十二日より元治元年十二月十八日まで

P8311208 right 「文字の焦点ボケが多い」

札差 ■【文字判読不可】ボケ ■柳亭一泊

十三日辰 晴

江目(金)初て来り面す(凡)、友輔来る面す、藤山より産賀赤飯贈り来る、出 殿、藤山  
清田へ寒見舞品、山田へ ■品遣す

十四日巳 晴

京都へ永持よりの雁書 □屋便にいたし立る、出 殿、山本(長)牛姑五郎御為富沢叔母  
保三等を招き、鉦児三才の賀 □を開き何れも駕送す、鉦児は明神社へ参詣せしめ  
奴婢等にて賀繕、賀銀をとらす

十五日午 晴風

月次御礼有し出 殿、御禮に出る、黄窪牛込坂町へ鉦児賀赤飯の使を遣す

P8311208 left

痴雲老来り面晤す、柳亭より寒見舞として蒲鉾其他小品を贈り越す、町田(耕)石川(圭)寒状届く  
十六日未 晴風烈

市川(中)池田(喜)初て来り面す、西(吉)来り面す、出 殿、松盛亭稽古に来る、納会に付酒  
飯を設く、小品を持参せり、須崎長尾へ寒見舞品を遣す、吉川(圭)へ過日借用の書付  
類を返す、山本(次郎)寒見舞に来り、鶏卵一重田造り一籠を贈らる、酒飯を設く

十七日申 晴

御 □等に付紅葉山御参詣無し、宅調、柳亭稽古に来る、三井より鶏卵一筐を贈り越、松盛斎より  
海賊墨漬少許を贈られ、古今集かるた認 □出来持せ越す

十八日酉 陰漸晴

蓮池(身)初て来り面す(下)、木城(五)来り面す、出 殿、永持より家作売払の義に付文通有し

\*1:

( )内は細字双行(二行に小さい文字で二行書き)などの場合です。

□印は解読未了の文字です。私の実力ではすぐ解読できません。

【文字判読不可】、■は、文章の一部に汚れ、虫食いにより文字が無い等です。